

| | |
|-----------|---|
| 学位被授与者氏名 | 藤原 翔 (ふじわら しょう) |
| 論文題目 | 日中両言語における省略表現についての比較研究 |
| 論文審査結果の要旨 | <p>省略現象は言語における「経済性の原理 (Nature of Economy in Language)」によることで、どの言語にもよく見られる。しかし、言語システムにより、異なる言語における省略可能と不可能な形式は相異があり、その相異についての研究は言語類型論及び第二言語教育と習得に参考になる。この意味で本論の研究テーマと研究内容は修論として認められ、評価できる。</p> <p>第3章以下に続く各章で「常識による省略」「文脈による省略」「問いかけによる省略」「時間の流れによる省略」「対比による省略」「同義異述による省略」「抽象語の具像化による省略」など考察視点は独自で斬新なものではないが、ある程度の解釈力がある。また中国語との比較は触れる程度で十分とは言えないが、概ね納得できると考えられる。</p> <p>本論の考察で及んでいる方面は接続成分、助詞、文成分を含んで、大体省略表現をカバーしているが、しかし、論文全体の構成、例えば、第2章と第3章の章立ての合理性、分析方法、専門術語の使用、現代言語理論の運用などはまだ大いに再考と充実の余地がある。中国語との比較も表面的な対訳にとどまっている。</p> <p>平成28年2月21日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館320教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(中国言語文化)として十分な内容であると判定した。</p> |